

秘

海軍公報 第四九七三號

昭和二十年四月一日(日) 海軍大臣官房

〇令 達

官房人機密第一九四號

昭和十八年官房人機密第一六四號中左ノ通改再ス

昭和二十年三月三十日

本文中「又ハ海軍豫備補習生教程」及「及兵」ヲ削リ「飛行科」ノ上ニ「水兵科」ヲ加ヘ「整備科又ハ工作科」ヲ「又ハ整備科」ニ改メ表ヲ左ノ如ク改ム

區	分	付與スベキ特技章種別
水測術豫備練習生教程ヲ修了シタル者		海軍對潛學校普通科水測術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス
氣象術豫備練習生教程ヲ修了シタル者		海軍氣象學校普通科氣象術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス
通信術乙種豫備練習生教程ヲ修了シタル者		海軍通信學校普通科電信術(交信班)練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス
電測術豫備練習生教程ヲ修了シタル者		海軍電測學校普通科電測術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス
飛行機操縱術甲種、同乙種及同丙種豫備練習生教程ヲ修了シタル者		海軍練習航空隊飛行術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス
整備術甲種豫備練習生教程ヲ修了シタル者	兵器整備術專修者	海軍練習航空隊普通科兵器整備術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス
	飛行機整備術專修者	海軍練習航空隊普通科飛行機整備術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス

整備術乙種豫備練習生教程ヲ修了シタル者	兵器整備術專修者	飛行機整備術專修者
海軍練習航空隊普通科兵器整備術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス		海軍練習航空隊普通科飛行機整備術練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看做ス

附則 本令ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ海軍豫備練習生規則ノ規定ニ依ル教程ヲ修了シ召集中ノ豫備下士官(既ニ特修兵タルモノヲ除ク)ニ對シテハ昭和二十年四月一日附所轄長之ニ當該特技章ヲ付與スルモノトス

(參照) 昭和十八年官房人機密第一六四號ハ海軍豫備練習生、補習生教程ヲ修了シタル者ヲ特修兵ト爲スノ件ナリ (内令提要卷二、四四頁)

官房人機密第一九四號 本年三月三十一日現在ノ工(鑑)員ニ付本年四月ニ於テ給料三十日分相當額以內ノ賞與ヲ支給スベシ 昭和二十年三月三十日

官房第一四四號 半島及本島出身ノ徵用工(鑑)員ニ對スル作業帽等ノ貸與ニ關

秘海軍公報 第四九七三號 昭和二十年四月一日

三三五

1118

シ左ノ通定ム

昭和二十年三月三十日

海軍大臣

一 品種及數量

作業帽 一人ニ付一個

地下足袋 同 一組

巻脚絆 同 一組

二 被貸與者

新ニ部外ヨリ徵用セラレ就業スル者但シ運輸部及施設部ニ於テ屋外作業ニ從事スル者ヲ除ク

三 貸與方法

入廠ノ際一回限り貸與ス

前項ノ規定ニ依リ貸與ヲ受ケタル者引續キ徵用期間ヲ延長セラレタルトキハ延長期間二年ニ付一回ノ割合ニテ入廠時ニ準ジ之ヲ貸與ス

四 支辨科目

工作廳(火藥廠ヲ除ク)

火藥廠 燃料廠

施設部

其ノ他

附屬費

事務費 雜費

營繕費 作場費

各本來當該科目

官房繼機密第八九二號

昭和十八年官房繼機密第一一五三號中左ノ通改正ス

昭和二十年三月三十日

海軍大臣

第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 兵器經理規程第十一條ノ規定ニ依ル吳海軍軍需部ノ所管ヨリ左ノ各部ヲ除キ其ノ各部ヲ大阪海軍軍需部ノ所管トス
大阪警備府司令部及同府ニ屬スル部隊並ニ之ニ本籍ヲ置ク特務艇
第二號中「又ハ部隊」ヲ削ル

〇 通 牒

軍需機密第二二五號

昭和二十年三月二十九日

海軍省經理局長
海軍省軍需局長

關係各廳長殿

一 艦營需品並ニ燃料亡失等ノ證明書ニ關スル件
通牒

官房需機密第八四號訓令ニ依ル首題取扱ニ關シテハ左記ニ依リ處理相成度
追テ昭和十八年一月十五日軍需機密第二六號通牒ハ之ヲ廢止ス

記

一所轄長ハ兵備品會計規程書式(第十號書式)ニ依ル離權票

ノ末尾ニ簡單ニ左ノ本文ヲ記載捺印シ(受込軍需部及年月日判明ノモノニ對シテハ記事欄ニ其ノ旨記入ノコト)ニ通テ所管又ハ所屬海軍軍需部長ニ提出スルモノトス但シ戰鬪行為ニ因リ亡失シタルモノニ在リテハ軍機ニ亙ル事項ノ記入ヲ避ケルモノトス

「上記ノ物品」ハ昭和 年 月 日……………ニ依リ保護スルノ術ヲ亡失セリ

本票ノ亡失ハ事實已ニテ得サルモノトシテ之ニ證明スル證據ハ……………ニ

二 兵備品會計官吏、兵備品取扱主任保管者ハ取扱ニ係ル物品ニシテ全部ヲ亡失シ其ノ數量不明ナルトキハ離權票ノ品名欄ニ「全部亡失」ト記載スルモノトス

(参照) 昭和十八年軍需機密第二六號ハ總管物品並ニ燃料亡失等ノ證明書ニ關スル件ナリ(總管物品、燃料取扱例規一八二ノ一七頁)

經豫機密第三號ノ三〇

昭和二十年三月三十日

海軍省 經理局長

關係各支出官
關係各廳長 殿

部外施設應急借用ニ要スル經費支辨科目ニ關スル件中改正ノ件通牒

秘海軍公報 第四九七三號 昭和二十年四月一日

昭和十九年經豫機密第三號ノ四七通牒首題ノ件中左ノ通改正シ昭和二十年四月一日ヨリ施行ノコトト相成候

追テ昭和十九年經豫機密第五號ノ一通牒原員、傭人、工員及鑛員用寄宿舎トシテ部外家屋借用ニ關スル件中三 經費支

辨科目(區分)ハ自然消滅ノ義ト了知相成度

一(イ)中施設部ノ項ノ次ニ左ノ項ヲ加フ

港 務 部 軍港要港費、浚渫費

二 中部隊ノ項ノ次ニ左ノ項ヲ加ヘ學校、病院及其ノ他ノ各部ノ

各項ヲ削ル

學校、病院(日本赤十字病院ニ依託患者用ヲ除ク) 雜給及雜費、家屋其他借料

其ノ他ノ各廳

(参照) 海軍機密會計法規類集二二頁及四二頁

艦本機密第一號ノ四〇六〇

昭和二十年三月二十六日

海軍艦政本部長

横須賀、吳、佐世保、舞鶴海軍工廠長
横須賀、吳、佐世保、舞鶴海軍軍需部長 殿

高角砲ニ新環型照準器裝備ノ件通牒

首題ノ件左記ニ依リ施行スベシ

記

一 新環型照準器ヲ裝備スベキ砲架

三三七

秘

海軍公報 第四九七四號

○令 達

官房經第一四八號
當分ノ間工員ノ給料ハ戰時海軍工員規則第六十條ノ規定ニ拘ラズ毎月十五日ヲ以テ之ヲ締切ルモノトス

昭和二十年三月三十一日

海軍大臣 官

官房艦第五五號

戰時海軍工作廳工事費規則特例申左ノ通改正ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣 官

二ノ二 工事費ハ毎月十五日之ヲ締切ルモノトス
第十號中「第十九條第一號」ヲ「第五條、第十九條第一號」ニ改ム
第二號及第三號書式備考中「二十日」ヲ「十五日」ニ改ム

○通 牒

軍務一機密第三〇二號ノ三

昭和二十年三月二十七日

海軍省軍務局長

秘海軍公報 第四九七四號

昭和二十年四月二日

三三九

昭和二十年四月二日(月) 海軍大臣 官

關係各廳長殿

飛行機移動ニ關スル氣象通報廢止ニ關スル件
通牒

昭和十八年兵備三機密第一九二號ニ係ル首題ノ件昭和二十年三月三十一日限り廢止セラレ候

軍需機密第二一〇號

昭和二十年三月二十日

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

松根乾溜用諸器具及松根原油處理ニ關スル件
申進

各廳部隊直營ノ首題ノ件ニ關シ左記ノ通定メラレ候條了知相成度

記

一、松根乾溜裝置ノ部品及松根油生産ニ要スル諸器具等ハ中央調達ノ上各海軍燃料廠ニ保轉シ各燃料廠ハ別表ニ依リ保轉又ハ供用スルモノトス但シ拔根用農機具(シヤベル、ポット錐、バチ鍬、斧、鋤、鋸、鋸目立ヤスリ等)中各軍需部ニ於テ艦營需品定額表ニ據リ備品貸與トシ處理シアルモノハ其ノ儘ト

シ差支ナキモノトス

二 海軍用地外ノ松根、松幹ヲ購入セル場合ハ農商省告示第千二百六號ニ據ル各地方長官ノ定ムル價格ニテ購買スルモノトス

三 乾溜セル松根原油並ニタールハ之ヲ混合シ粗製原油トシテ近畿以東ノ海軍地區ニ於テ採油セルモノハ第二海軍燃料廠ニ、中國以西ニテ採油セルモノハ第三海軍燃料廠ニ送付スルモノトス（送付先等ニ關シ當該燃料廠ヨリ通知アル場合ハソノ通知ニ據ルモノトス）其ノ粗製原油ノ價格ハ燃料廠ニテ「プール」スル事トシ各廳部隊ヨリ送付ノ分ハ元受ニ依リ處理ス

輸送用下ラム罐ハ油送付先燃料廠ト連絡シ送付ヲ受クルモノトス

輸送ハ日本通運株式會社ヲシテ實施セシメ費用ハ送付先燃料廠ニ於テ支拂フモノトス

四 各燃料廠支出官及物品出納命令官ハ必要ニ應ジ各廳部隊ニ臨時資金前渡官吏又ハ分任會計官吏ヲ任命スル等ノ適宜ノ處置ヲ講ジ差支ナシ

五 支出科目左ノ通定ム

(イ) 松根乾溜釜、拔根用農機具、採集用諸器具及必要ナル運搬器具等購入費、松根乾溜釜用鐵板切斷工事費及生産ニ要スル人夫賃等ハ

臨時軍事費 臨時軍事費 營繕費 機械費

(ロ) 松根原油、タール、松根、松幹、乾溜用燃料（薪）等ノ購入費、松根原油及タールノ運搬費ハ

臨時軍事費 臨時軍事費 營繕費 燃料

(備考)

松根、松幹等ノ運搬ニ要スル諸費用ハ農商省告示第千二百六號ニ據ル買入價格ニ包含セシムルモノトス

(別表)

地區別	燃料廠名
關東東地	第一海軍燃料廠
木會	第二海軍燃料廠
中國四國	第三海軍燃料廠
朝鮮	第五海軍燃料廠

經給第五五號

昭和二十年三月三十日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

海軍武官又ハ文官ニシテ軍需省ノ文官ニ專任、專補又ハ兼任、兼補セラレタル者ノ給與ニ關スル件中改正ノ件通牒

昭和十九年經給第一四八號第三號(イ)中(二)ヲ(三)トシ以下
順次繰下ゲ(一)ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

(二) 勤續手当

(參照) 昭和十九年八月十八日秘海軍公報

經給第五六號

昭和二十年三月三十一日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

工員給料締切改正ニ伴フ給與事務處理ニ關スル件通牒

今般官房經第一四八號改正ニ依リ工員ノ給料ハ毎月十五日ヲ以テ締切リ其ノ月末日迄ニ之ヲ支給スルコトト相成候處右ハ時局ノ進轉ニ伴フ事務關係員ノ急激ナル弱體化ニ對處シテ締切期日ヨリ支給日迄ノ事務處理期間ヲ延長シ工員給與ノ圓滑ナル實施ニ支障ナカランメントスル趣旨ニ有之候條給與事務處理ニ當リテハ極力事務ノ簡捷ヲ圖リ從來ノ支給定日ヨリモ繰上ゲ支給スル如ク實施相成度

經契五第一〇一號

昭和二十年四月一日

海軍省經理局長
海軍省軍需局長

關係各廳長殿

秘海軍公報 第四九七四號 昭和二十年四月二日

艦船部隊用木炭代金支拂ニ關スル件照會
首題ノ件昭和十九年十月二十六日經契五第七六號(石炭代金支拂方法)ト同要領ニ準ジ處理スルコトニ定メラレ候條了知相成度

○ 雜 款

○本日軍極秘海軍公報第一〇八號(乙配付)發行セリ
配付先

關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、
大浦突撃隊、吳海軍工廠、關係各學校

秘

海軍公報 第四九七五號

昭和二十年四月四日(水)
海軍大臣官房

○令 達

内令第二六三號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定ム

第一號哨戒特務艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

第百九十一號哨戒特務艇

昭和二十年三月二十七日

内令第二六四號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラレ

昭和二十年三月二十七日

第一監視艇隊ノ項中「第五千秋丸」ノ上ニ「第一號哨戒特務艇」ヲ加フ
第二監視艇隊ノ項中「海竜丸」ノ上ニ「第百九十一號」ヲ加フ

(内令提要卷一、一五一頁参照)

官房軍機密第三二三號

昭和二十年官房軍機密第二四四號下士官及兵派遣ノ件中左ノ通

改正ス

昭和二十年四月一日

別表中海軍施設本部ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

海軍化兵職部				
兵	曹	衛生兵	主計兵	水
曹(特修兵適宜)	曹(特修兵適宜)	曹(特修兵適宜)	曹(掌理兵)	兵(特修兵適宜)
五	三	一	六	二
横須賀鎮守府				

(昭和二十年三月十二日秘海軍公報参照)

○通 牒

官房軍第一六七號

昭和二十年四月一日

關係各廳長殿

海軍軍醫學校戸塚分校ノ呼稱ニ關スル件通牒

昭和十九年官房軍第八九〇號通牒首題ノ件ハ戸塚海軍衛生學校

秘海軍公報 第四九七五號 昭和二十年四月四日

三四三

設置ニ伴ヒ廢止ノコトト了知相成度

(諸例則卷一、五九八ノ一頁参照)

○感 狀

感 狀

仲道海軍中尉ノ指揮セル

第九〇一海軍航空隊特別掃蕩隊第一小隊

右ハ昭和十九年八月敵探機ニヨル敵潛特別掃蕩隊ヲ編成セラ
ルヤ銳意研鑽克ク磁氣探知器ノ活用ト對潛戰法ノ演練ニ努メ困
難ナル狀況ニ於テ船團護衛並ニ對潛作戰ニ任シ爾後十月上旬ニ
至ル期間ニ敵潛ヲ探知捕捉シ他部隊ト協同擊沈セル敵潜水艦少
クモ三隻擊破セルモノ其他數隻ニ及ヒタルハ海上護衛作戰ニ寄
與セルコト甚大ニシテ武勳拔群ナリト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十九年十一月三日

海上護衛司令長官 野村 直邦

感 狀

三宅海軍少尉ノ指揮セル

第四五三海軍航空隊特別掃蕩隊第二小隊

右ハ昭和十九年五月敵探機ニ依ル敵潛特別掃蕩隊ヲ編成セラ
ルヤ銳意研鑽克ク磁氣探知器ノ活用ト對潛戰法ノ演練ニ努メ船
團護衛並ニ對潛作戰ニ任シ六月以降八月中旬ニ至ル期間ニ於テ
潛沒潜水艦ヲ探知捕捉シ他部隊ト協同擊沈セルコト四隻ニ及ヒ

タルハ海上護衛作戰ニ寄與セルコト甚大ニシテ武勳拔群ナリト
認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十九年十一月三日

海上護衛司令長官 野村 直邦

感 狀

赤穴海軍大佐ノ指揮セル

第一海上護衛隊第四運航指揮班

右ハ昭和十八年八月以降一年有半ニ亘リ主トシテ内地南西方面
間ノ重要船團部隊ノ指揮ニ任スルコト三十回ニ及ヘリ其ノ間屢
々敵潜水艦及航空機ノ攻撃ヲ受ケタルモ沈着果斷克ク之ヲ擊退
シ船艇延三百四十隻ノ護衛ヲ完遂セルハ作戰ニ寄與セル處甚大
ニシテ武勳拔群ナリト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十九年十二月十日

海上護衛司令長官 野村 直邦

○雜 款

○本日軍機秘海軍公報第一〇九號(乙配付)發行セリ

配付先

各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、第二
海軍技術廠、第二、第三特攻戰隊、各突擊隊、關係各學校

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報 第四九七六號

○ 令 達

内令第二六五號

昭和十三年内令第三四一號地方在勤海軍武官ノ在勤地ニ關スル
件申左ノ通改正ス

昭和二十年三月二十八日

海 軍 大 臣

臨時地方在勤海軍武官ノ在勤地名ノ部中「敦賀」ノ下ニ「境」
ヲ加フ

附 則

本令ハ昭和二十年四月五日ヨリ之ヲ施行ス

(内令提要卷一、一八ノ六頁參照)

内令第二六六號

海上交通保護ニ關スル地方在勤海軍武官服務要領申左ノ通改正
ス

昭和二十年三月二十八日

海 軍 大 臣

別表中

三池在勤海軍武官府 博多、西戸崎、三池、住ノ江、三角

昭和二十年四月五日(木)

海軍大臣

官房 20.4 12

博多在勤海軍武官府

博多、西戸崎、唐津、伊萬里

三池在勤海軍武官府

三池、住ノ江、三角

伏木在勤海軍武官府

東岩瀬、伏木、七尾、敦賀

伏木在勤海軍武官府

東岩瀬、伏木、七尾

敦賀在勤海軍武官府

敦賀

境在勤海軍武官府

境

ハ

別表附録港灣ノ欄中佐領ノ項「唐津、伊萬里」ヲ、同欄中舞
領ノ項「境」ヲ削ル

附 則

本令ハ昭和二十年四月五日ヨリ之ヲ施行ス

(内令提要卷三、二二四ノ一三頁參照)

内令第二六七號

昭和十七年内令第九〇〇號支那地方在勤海軍武官及南方地方在
勤海軍武官ノ在勤地ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和二十年三月二十八日

海 軍 大 臣

秘海軍公報 第四九七六號 昭和二十年四月五日

三四五

1127

<p>第一號中「北京、」ノ下ニ「塘沽、」ヲ加フ 附則 本令ハ昭和二十年四月五日ヨリ之ヲ施行ス (内令提要卷一、一八〇九頁參照)</p>	<p>内令第二六八號 當分ノ間塘沽在勤海軍武官ハ主トシテ海上交通保護ノ事務ニ服スルモノトス 本令ハ昭和二十年四月五日ヨリ之ヲ施行ス 昭和二十年三月二十八日 海軍大臣</p>	<p>内令第二六九號 右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル 海防艦 保高 横須賀鎮守府在籍 海防艦 保高 右警備海防艦ト定メラル 昭和二十年三月三十日 海軍大臣</p>	<p>内令第二七〇號 昭和十八年内令第二二三號航空兵器供給所ノ名稱及所在地ノ件申左ノ通改正ス 昭和二十年三月三十一日</p>
<p>第二海軍航空廠岡崎補給工場ノ項ノ次ニ 第二海軍航空廠名古屋補給工場 愛知縣西加茂郡保見村伊保ノ原 第十一海軍航空廠松山補給工場ノ項ノ次ニ 第十一海軍航空廠觀音寺補給工場 香川縣三豐郡糟田村 第十二海軍航空廠築城補給工場ノ項ノ次ニ 第十二海軍航空廠宮崎補給工場 宮崎縣宮崎市 ヲ加フ (内令提要卷一、三〇ノ二四ノ二、三頁參照)</p>	<p>内令第二七二號(軍秘海軍公報第一一〇號(乙配付)ニ掲載) 内令第二七三號 第百七十三號輸送艦 右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル 佐世保鎮守府在役特務艦 特務艦 早稲</p>	<p>右第四豫備特務艦ト定ム 昭和二十年四月一日 海軍大臣</p>	<p>官房軍機密第三三四號 昭和二十年官房軍機密第二四四號下士官及兵派遣ノ件中左ノ通</p>

改正ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

別表軍需局ノ部中機關兵曹(特修兵適宜)「五」ヲ「四」ニ改ム

(昭和二十年三月十二日秘海軍公報參照)

官房經機密第二一四號

海軍戰時特例給與規則申左ノ通改正ス

昭和二十年四月三日

海軍大臣

第一條中「千島諸島、小笠原諸島、新南群島、南洋群島」ヲ「ム島及ウエーケ島ヲ含ム以下之ニ同ジ」、支那、佛領印度支那、タイ、フィリピン、英領マライ、英領ボルネオ、蘭領印度、布哇諸島其ノ他大東亞圈内ノ米國又ハ英國ノ領土等」ヲ「戰地(千島諸島、小笠原諸島、新南群島、南洋群島、支那、佛領印度支那、タイ、フィリピン、マライ、ボルネオ、スマトラ、ジャワ、布哇諸島其ノ他大東亞圈内ニ在ル米國又ハ英國ノ領土等ヲ謂フ以下之ニ同ジ)及準戰地(伊豆諸島、薩南諸島、琉球諸島及臺灣(新南群島ヲ除ク)ヲ謂フ以下之ニ同ジ)」ニ改ム

第一條ノ二中「軍人軍屬」ノ下ニ「及豫備員候補者」ヲ、「在勤増給」ノ下ニ「勤続手當」ヲ、「臨時家族手當」ノ下ニ「(加給ヲ含ム)」ヲ加ヘ「戰地」ニ「戰地又ハ準戰地」ニ、「戰地ト戰地外トノ間又ハ戰地」ヲ「戰地若ハ準戰地ト戰地外若ハ準

戰地外トノ間又ハ戰地若ハ準戰地」ニ、「取ル爲出發スルトキ」ヲ「取ル各部ニ勤務スルトキ」ニ改ム

第一條ノ三中「災害」ノ下ニ「(災害ヲ豫想セラルル場合ヲ含ム)」ヲ加フ

第一條ノ四中「戰地ニ在ル」ヲ「戰地又ハ準戰地ニ在ル」ニ、「戰地ニ在ラザル」ヲ「戰地若ハ準戰地ニ在ラザル」ニ改メ「死亡公表ノ日」ノ下ニ「(給與掌理者ニ於テ海軍省人事局長又ハ海軍人事部長ヨリ正式ニ死亡ノ通知ヲ接受シタル日ヲ謂フ但シ死亡ノ通知ヲ接受スル以前ニ於テ海軍葬儀ヲ執行シタルトキハ其ノ葬儀ノ日ヲ以テ死亡ノ通知ヲ接受シタル日ト看做ス)」ヲ加フ

第一條ノ五中「軍人軍屬」ノ下ニ「及豫備員候補者」ヲ加フ

第一條ノ六 俸給等諸給與(俸給、給料及報酬並ニ潛航艇加俸、航空加俸及化學兵器手當中日額ノ定メアルモノヲ除ク)ニシテ月額ノ定メアルモノニ在リテハ其ノ三十分ノ一ヲ以テ日額、日額ノ定メアルモノニ在リテハ其ノ三十分ヲ以テ月額ト看做スコトヲ得但シ其ノ支給スベキ事由ノ期間一月ニ滿タザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一條ノ七中「千島諸島、小笠原諸島、新南群島及南洋群島ヲ除ク」ヲ「戰地タル地域ヲ除ク」ニ改ム

第二條中「第一條ノ地域」ヲ「戰地又ハ準戰地」ニ改ム

第二條ノ二中「戰地」ヲ「戰地又ハ準戰地」ニ改ム

第二條ノ九ヲ第二條ノ十二、第二條ノ十ヲ第二條ノ十三トス

第二條ノ七ヲ第二條ノ九トシ第二條ノ八中「戰地」ノ下ニ「又

秘海軍公報 第四九七六號 昭和二十年四月五日

三四七

ハ準戦地」ヲ、「戦地外」ノ下ニ「又ハ準戦地外」ヲ加ヘ同條ヲ第二條ノ十トス

第二條ノ五中「第一條ノ地域」ヲ「戦地又ハ準戦地」ニ改メ同條ヲ第二條ノ七トス

第二條ノ六中「戦地ニ派遣セラルルモノ」ヲ「戦地若ハ準戦地ニ派遣セラルルモノ」ニ、「戦地ト戦地外トノ間若ハ戦地」ヲ「戦地若ハ準戦地ト戦地外若ハ準戦地外トノ間又ハ戦地若ハ準戦地」ニ改メ同條ヲ第二條ノ八トス

第二條ノ三ヲ第二條ノ六トス

第二條ノ三 前條第一項ノ規定ハ本邦（戦地及準戦地タル地域ヲ除ク以下之ニ同ジ）ニ在ル艦船（豫備艦船ニシテ定繋港内ニ在ルモノヲ除ク）、航空隊（横須賀航空隊以外ノ練習航空隊ヲ除ク）、特設飛行隊、特設航空輸送隊、特設突撃隊、特設海上護衛隊及特設回航班並ニ樺太ニ在ル各部ニ勤務スル軍人軍屬ニ付之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ該當スル艦船部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル豫備員候補者ニハ豫備員候補者手當（海軍給與令第四十四條ノ二ノ規定ニ依リ加給セラルル分及同令第九表備考ノ規定ニ依リ増給セラルル分ヲ除ク以下之ニ同ジ）ノ十分ノ五ヲ増給ス

第二條ノ四 本邦ニ在ル定繋港内ノ第一豫備ノ艦船及練習航空隊（横須賀航空隊ヲ除ク）、警備隊（以下通信隊迄特設ノモノヲ含ム）、防備隊、潜水艦基地隊、航空基地隊、通信隊、海兵團、港務部、特設根據地隊（特別根據地隊ヲ含ム）、特設護衛

船團司令部、特設船舶警戒部、特設鎮守府特別陸戰隊、特設防空隊、特設魚雷調整班、特設設警隊及特設氣象隊ニ勤務スル軍人軍屬ニハ左ノ區分ニ依リ戰時増俸ヲ支給ス

一 准士官以上、候補生及見習尉官ニ在リテハ俸給ノ十分ノ三但シ尉官、候補生、見習尉官及准士官ニシテ戰時増俸月額三十圓ニ滿タザルトキハ月額三十圓

二 下士官兵ニ在リテハ俸給ノ十分ノ四

三 文官同待遇者ニ在リテハ俸給（報酬ヲ含ム）ノ十分ノ三但シ判任文官同待遇者ニシテ戰時増俸月額三十圓ニ滿タザルトキハ月額三十圓

四 雇員及傭人ニ在リテハ俸給ノ十分ノ四

前項ノ規定ニ該當スル艦船部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル豫備員候補者ニハ豫備員候補者手當ノ十分ノ四ヲ増給ス

第二條ノ五 本邦ニ在ル艦船部隊、官衙又ハ學校ニ勤務スル軍人軍屬ニハ前二條ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ區分ニ依リ戰時増俸ヲ支給ス

一 准士官以上、候補生及見習尉官ニ在リテハ俸給ノ十分ノ三但シ戰時増俸月額十九圓ニ滿タザルトキハ月額十九圓
二 下士官兵ニ在リテハ俸給ノ十分ノ一
三 文官同待遇者ニ在リテハ俸給（報酬ヲ含ム）ノ十分ノ一
四 雇員傭人ニ在リテハ俸給ノ十分ノ一
前項ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ之ヲ適用セズ
一 修學中ノ見習尉官

二 俵給、給料若ハ報酬ノ支給ヲ受ケザル者又ハ一時ノ報酬ノ支給ヲ受クル者

三 外國(戰地タル地域ヲ除ク)ニ出張中ノ者

第二條ノ十一 第二條ノ三又ハ第二條ノ四ノ規定ニ依リ戰時増俸ヲ受クベキ者戰地外又ハ準戰地外ニ於テ入院シ又ハ治療ヲ受クル爲勤務ニ服セザルトキハ指定地ニ到着又ハ入院若ハ受療ノ日ノ翌日ヨリ出務ノ日ノ前日迄前條ノ規定ヲ準用ス但シ傷痍疾病ノ原因公務ニ起因セザルトキハ指定地ニ到着又ハ入院若ハ受療ノ日ノ翌日ヨリ出務ノ日ノ前日迄戰時増俸ヲ停止ス

第三條ノ二第三號中「北緯四十四度以南同二十六度以北ノ本邦(千島諸島及小笠原諸島ヲ除ク)」ヲ「北緯四十四度以南同三十三度五十五分以北ノ本邦(千島諸島及第二海域ニ在ル地域ヲ除ク)」ニ、「同二十六度以北、東經百四十六度北緯四十二度ノ點ト東經百四十度北緯三十二度ノ點及東經百三十度北緯二十六度」ヲ「同三十度五十五分以北、東經百四十六度北緯四十二度ノ點ト東經百四十度北緯三十四度五十五分ノ點及東經百三十度北緯三十度五十五分」ニ、「同二十六度以南同二十一度以北、東經百四十六度北緯四十二度ノ點ト東經百四十度北緯三十二度ノ點及東經百三十度北緯二十六度」ヲ「同三十度五十五分以南、同二十一度以北、東經百四十六度北緯四十二度ノ點ト東經百四十度北緯三十四度五十五分ノ點及東經百三十一度北緯三十度五十五分」ニ改ム

第四條及第五條中「臺灣、」ヲ削ル

第六條中「軍屬」ノ下ニ「及豫備員候補者」ヲ加フ

第八條第一項中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ、同條第二項中「戰地外」ノ下ニ「又ハ準戰地外」ヲ加フ

第九條ノ二中「豫備准士官ニ任用セラレ」ノ下ニ「豫備候補生ニ採用セラレ」ヲ加フ

第十條ノ二中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加ヘ同條第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ第二條ノ三ノ規定ニ該當スル艦船(豫備艦船ヲ除ク)部隊其ノ他ノ各部ニ赴任又ハ轉勤スル軍人軍屬ニ付之ヲ準用ス

第十一條中「戰地」ノ下ニ「若ハ準戰地」ヲ加フ

第十二條中「戰地」ヲ「戰地若ハ準戰地」ニ改ム

第十三條中「第一條ノ地域」ヲ「戰地又ハ準戰地」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ第二條ノ三ノ規定ニ該當スル艦船部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル軍人軍屬ニ付之ヲ準用ス

第二十條ノ二第一號中「戰地」ノ下ニ「若ハ準戰地」ヲ、「軍人軍屬」ノ下ニ「及豫備員候補者」ヲ加ヘ同條第二號中「軍人軍屬及」ヲ「軍人軍屬、豫備員候補者及」ニ改メ同條第三號中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加ヘ「ニシテ昭和十七年官房第四五八五號ニ依リ軍屬ト爲リタルモノ」ヲ削リ同條第五號中「戰地外」ノ下ニ「又ハ準戰地外」ヲ加フ

第二十一條第二號中「戰地又ハ」ヲ「戰地、準戰地又ハ」ニ、
 「戰地ト」ヲ「戰地又ハ準戰地ト」ニ改メ同條第三號中「戰地」
 ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加フ

第二十一條ノ第二項中「第二條若ハ第二條ノ二ノ規定ニ該當
 スル者、戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル
 者、戰備完成ノ艦船部隊其ノ他各部ニ在ル者」及同條第二項中
 「第二條若ハ第二條ノ二ノ規定ニ該當スル者、戰地ニ在ラザル
 モ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル者」ヲ各「第二條乃至第
 二條ノ四ノ規定ニ該當スル者」ニ改ム

第二十二條中「死歿ノ日」ヲ「死亡（死亡公表前ヲ含ム以下之
 ニ同ジ）ノ日」ニ、「死歿」ヲ「死亡」ニ改メ「戰地」ノ下ニ
 「若ハ準戰地」ヲ加フ

第二十四條中「戰地外ノ」ヲ削ル

第二十四條ノ第二項中「戰地外」ノ下ニ「又ハ準戰地外」ヲ
 加フ

第一表ノイ、第一表ノロ及第一表ノ二ヲ夫々別表ノ如ク改ム

第二表第二欄「同二十六度以北ノ本邦（千島諸島及小笠原諸島
 ヲ除ク）ヲ「同三十度五十五分以北ノ本邦（千島諸島及第二海
 域ニ在ル地域ヲ除ク）」ニ、「同二十六度以北」ヲ「同三十度五
 十五分以北」ニ、「北緯二十六度」ヲ「北緯三十度五十五分」ニ
 改ム

同表第三欄ヲ左ノ如ク改ム

第 三 欄		甲				乙				丙				丁			
北緯四十四度以北同三十度五十五分以南ノ本邦（千島諸島、小笠 原諸島、南洋群島及新南群島ヲ除ク）沿岸、滿洲沿岸北緯五十度 以南ノ頭細亞蘇聯沿岸第二海域（東經百四十六度以西北緯四十 四度以北同五十度以南、同三十度五十五分以南同二十一度以北東 經百四十六度北緯四十二度ノ點ト東經百四十四度北緯三十四度五十 五分ノ點及東經百三十一度北緯三十度五十五分ノ點トヲ連結スル 線ノ以東以南東經百四十六度北緯三十度ノ點ト東經百三十度北緯 二十一度ノ點トヲ連結スル線ノ以西以北ノ海域ヲ謂フ		二一五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五
		二一五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五
		二一五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五
		二一五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五
		二一五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五
		二一五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五
		二一五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五
		二一五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五
		二一五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五
		二一五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五	二四五	二四五	三〇五	三〇五

(官房機密第二二四號別紙)

豫 備 補 習 生	徒 生 備 豫		豫 備 學 生	區 分		第一表之二 豫備員候補者増給
	其 ノ 他 ノ 者	海軍豫備員任用臨時特例ニ依リ採用ノ者		戰 地	準 戰 地	
三二	二九	四四	七三			
三〇	二六	四〇	六六			

(昭和三十年四月五日祕海軍公報)

區分		戰時増徴		標準額	
職	時	増	徴	戦	額
大將	一七九〇			二〇六〇	
各將	一五七〇			九六〇	
各少將	一三五五			八六〇	
各科佐	一一三五			七三〇	
各科佐	八九〇			六二五	
各科佐	六六〇			四九五	
各科中尉	四八〇			三八〇	
各科中尉	三七五			三三〇	
各科少尉	三五〇			二九五	
特務科大尉	五六五			四四〇	
特務科中尉	四八〇			三八〇	
特務科少尉	四三五			三五五	
見習尉官	三一〇			二四〇	
准尉官	三六〇			三三〇	
上等下士官 一、二級	三〇〇			二六五	
上等下士官 三、四級	一八〇			一三〇	
一等下士官	一二〇			九五	
二等下士官	一〇〇			七五	
兵長	七五			五五	
上等兵	六〇			四四	
一等兵	五五			三九	
二等兵	四〇			三〇	

(官房経機密第二四號別紙)

(昭和二十年四月五日秘海軍公報)

(官房機密第二一四號別紙)

(昭和二十年四月五日海軍公報)

考備	前嘱 項ニ該當セザル 員、備託人者	嘱託者			委任官同待遇者						高等文官同待遇者	區分		第一表ノ(ロ) 戦時増俸	
		部内限 制待遇者	部内限 制待遇者	部内限 制待遇者	特一級	二級	三級	四級	五級	六級		戦地	準戦地		
引續キ本令ノ適用ヲ受クル者ノ新ニ受クベキ戦時増俸ノ額從前ノ額ヨリ少キトキハ從前ノ額ヲ支給ス	判任文官同待遇者及嘱託者ヨリ高等文官同待遇者ニ、嘱託者、雇員及傭人ヨリ判任文官同待遇者ニ任用又ハ採用セラレ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
		報酬月額ノ十分ノ十一	報酬月額ノ十分ノ十二	報酬月額ノ十分ノ十一	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
引續キ本令ノ適用ヲ受クル者ノ新ニ受クベキ戦時増俸ノ額從前ノ額ヨリ少キトキハ從前ノ額ヲ支給ス	報酬月額又ハ給料(日給者ハ日給三十日分)ノ十分ノ十一ヲ月額トス但シ其ノ額八十回ニ滿タザルトキハ十分ノ十ニシテ支給ス	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
		報酬月額ノ十分ノ八・五	報酬月額ノ十分ノ八・五	報酬月額ノ十分ノ八・五	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

秘

海軍公報 第四九七七號

昭和二十年四月六日(金) 海軍大臣官房

○令 達

内令第二七一號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

第七十七號海防艦

第九十六號海防艦

第九十八號海防艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

第七十七號海防艦

佐世保鎮守府在籍

第九十六號海防艦

第九十八號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年三月三十一日

海軍大臣

内令第二七四號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月一日

海軍大臣

第十九潜水隊ノ項中「伊號第五百十六、」及「伊號第六百六十二、伊號第六百六十五」ヲ削ル
第三十四潜水隊ノ項中「呂號第四十一」ノ上ニ「伊號第五百十六、伊號第六百六十二、伊號第六百六十五、」ヲ加フ
(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第二七五號

輸送隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月一日

海軍大臣

第三十一輸送隊ノ項中「第百四十六號」ノ下ニ「第百七十三號」ヲ加フ
(内令提要卷一、七四頁参照)

内令第二七六號

特設海軍航路部等ノ所管、所屬、名稱及所在地ノ件申左ノ通改定セラル

昭和二十年四月一日

海軍大臣

吳鎮守府所管第二十五根據地隊ノ部中

秘海軍公報 第四九七七號 昭和二十年四月六日

三五三

第百四海軍經理部 アンボン 及 第百四海軍病院 アンボン
ヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ四〇頁参照)

内令第二七七號

昭和十五年内令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ヲ定ムルノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

表中第百四海軍經理部及第百四海軍病院ノ各項ヲ削リ

第百二海軍經理部
マカツサル支部

第百二海軍經理部
マカツサル支部
アンボン支部

ニ改メ第百二海軍病院マカツサル分院ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第百二海軍病院 アンボン分院	アンボン	所屬艦隊其ノ地各部ノ患者ノ診 療、諸般ノ衛生的検査及傳染病 消毒並ニ各部ニ要スル治療品ノ 準備、保管及供給ニ關スル事項
-------------------	------	--

(内令提要卷一、三八ノ四九頁参照)

内令第二七八號

海軍化兵戦部令左ノ通定メラル

昭和二十年四月一日

海軍大臣

海軍化兵戦部令

- 第一條 海軍省内ニ海軍化兵戦部ヲ設ク
- 第二條 海軍化兵戦部ハ化學兵器等ニ關スル事項ヲ連絡統合ニ任ジ且左ノ事項ノ研究調査及企畫ヲ掌リ其ノ實行ノ促進ニ當ル所トス
 - 一 化兵戦體制ノ急遽整備ニ關スル事項
 - 二 化學兵器ノ用法ニ關スル事項
 - 三 化學兵器ノ整備ニ關スル事項
 - 四 化兵戦關係ノ要員ニ關スル事項
 - 五 化兵戦關係ノ教育訓練ニ關スル事項
 - 六 化兵戦實施部隊ノ編制及裝備ニ關スル事項
 - 七 化兵戦關係ノ醫務衛生ニ關スル事項
 - 八 化兵戦ニ關シ陸軍其ノ他部外トノ連絡ニ關スル事項
 - 九 化兵戦ノ情報ニ關スル事項
- 第三條 海軍化兵戦部ニ部長、部員及附ヲ置ク
- 第四條 部長ハ海軍大臣ニ隸シ部務ヲ總理ス
- 第五條 部長缺勤中又ハ事故アルトキハ部下ノ職員席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス
- 第六條 部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス
- 第七條 附ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス
- 第八條 部長ハ研究調査及企畫シタル事項ニ關シテハ案ヲ具シ

之ヲ主務局部ニ移スト共ニ關係ノ内外各部ト密接ナル連繫ヲ保持シ事務ノ促進ヲ圖ルモノトス

第九條 海軍化兵戰部ノ定員表ハ別表ニ依ル

(別表添)

官房需第六五號

當分ノ間海軍給與令施行細則第四百十三條第二項ノ規定ニ拘ラズ兵備品取扱主任軍港外又ハ要港(徳山要港ヲ除ク)外ノ請負人設置シアル地ニ於テ所轄長必要ト認ムルトキニ限り糧食品ヲ直接購買スルコトヲ得

昭和二十年四月四日

海軍大臣

官房教機密第一八〇號

當分ノ間海軍航海學校普通科信號術練習生ノ教育ハ海軍航海學校教育綱領第十二條ノ規定ニ拘ラズ左ニ依リ之ヲ實施スベシ

昭和二十年四月五日

海軍大臣

普通科信號術練習生ノ教育ハ練習生ヲシテ信號術、見張術及喇叭術ノ基礎的知識及技能並ニ航海術ノ概念ヲ修得セシメ信號、見張、艦位測定補助等ノ業務ニ充テ其ノ職務ヲ遂行スルニ遺憾ナカラシムルヲ目的トシ之ヲ信號班及見張班ニ分ツ各別教育

ノ主眼及之ニ課スベキ教科目左ノ如シ

一、信號班

信號班ニ在リテハ主トシテ信號員トシテ必要ナル素養ヲ得シムルヲ主眼トス

科	目	項	日	記事
本	一	信號術	海軍諸信號法、國際通信法(信號)概要、信號教練、信號要務、信號兵器器具	
	二	見張術	見張法、見張教練、見張兵器器具	
	三	喇叭術	喇叭操法、喇叭譜調、喇叭吹奏	
	四	勸務要項	旗章、儀禮、諸日誌記註法	
	五	航海術	航海兵器概要、航路標識、水路圖誌、海上衝突豫防法、海洋學概要	
	六	他術	陸戰教練	
	七	運用術	短艇擲漕、應急術概要	
	八	口達傳令法		
	九	旗旋縫結		
	十	普通學	勸務ニ必要ナル「ローマ」字、讀書、算術	
補	十一	體操	體技、體操	
	十二	武技	銃劍術、劍道、柔道、游泳術、相撲	
科				校長ハ適宜取捨スルコトヲ得

二、見張班

見張班ニ在リテハ主トシテ見張員トシテ必要ナル素養ヲ得シムルヲ主眼トス

秘海軍公報 第四九七七號

昭和二十年四月六日

三五五

科		目		項		目		記事	
本	一	見	張	術	見張法一般、戰鬥見張法、保安見張法、見張教練、見張兵器ノ取扱並ニ使用法、電波探信儀ノ概要				
二	信	號	術	術	運動用語、陣形名稱、味方識別信號法、信號術概要				
三	航	海	術	術	海上衝突防禦法、航路標識				
四	諸	法	規	規	勤務ニ必要ナル諸法規	校長ハ適宜取捨スルコトヲ			
五	運	用	術	術	短艇操漕、應急術概要				
六	砲	術	術	術	陸戰教練				
七	手	旗	旗	旗					
八	旗	旗	旗	旗					
九	武	技	體	體	銃劍術、劍道、柔道、游泳術、相撲				

○通牒

艦本機密兵電第四八八號

昭和二十年四月五日

海軍艦政本部長

各海軍軍需部長
關係各廳長

各種電球引替供給ノ件通牒（各長主管）

左記兵器ハ内地軍需部供給ノモノニ限リ引替供給スベシ
追テ還納受電球ハ毎月月末マデニ品名、數量通報ヲ得度

一五〇W以上ノ電球 各種

○雜款

○履歷書（表）記入事項ノ件

本年官房人第一三八號ニ依リ特設警備隊ノ勤務員ニ對シ加算ヲ付與セラルルコトナリタルヲ以テ昭和十九年七月二十日以後當校ニ勤務シ警備隊附ヲ命ゼラレタルモノニシテ轉出セルモノノ履歷書（表）ニ左記ノ通記註相成度

記

自昭和十九年七月二十日 久里濱第二警備隊藤澤派遣隊ニテ戰至昭和十九年八月三十一日 藤澤警備隊ニテ戰務了
藤澤派遣隊

自昭和十九年九月一日 藤澤警備隊ニテ戰務了
藤澤警備隊

（海軍電測學校）

○本日軍機秘海軍公報第一二二號（甲配付）發行セリ

秘

海軍公報 第四九七八號

昭和二十年四月七日(土)

海軍大臣

○令 達

内令第二七九號
聯合艦隊ニ參謀副長ヲ置ク等ノ件中左ノ通改正セラル

昭和二十年四月一日

海軍大臣

第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ外聯合艦隊ニハ司令長官ノ幕僚トシテ參謀副長一人ヲ
置キ陸軍少將又ハ大佐ヲ以テ之ニ補スルコトヲ得

(内令提要卷一、三〇ノ六八頁参照)

内令第二八〇號

昭和十五年内令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ヲ定
ムルノ件中左ノ通改正ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

第百一海軍工作部サブ分工場ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第百一海軍工作部 西頁分工場	西頁	所在地方面各部ノ艦船及兵器 装置ニ工物タル有線通信 装置ノ造修ニ關スル事項
-------------------	----	---

(内令提要卷一、三八ノ五一頁参照)

内令第二八一號

昭和十五年内令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ヲ定
ムルノ件中左ノ通改正ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

表中第八海軍軍需部ブイン支部ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ五二頁参照)

内令第二八二號

昭和十八年内令第二二三號航空兵器供給所ノ名稱及所在地ノ
件中左ノ通改正ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

第二海軍航空廠鈴鹿 補給工場	第二海軍航空廠鈴鹿 支廠
第二海軍航空廠河和 補給工場	第二海軍航空廠河和 支廠
第二海軍航空廠豐橋 補給工場	第二海軍航空廠豐橋 支廠
第二海軍航空廠岡崎 補給工場	第二海軍航空廠岡崎 支廠
第二海軍航空廠名古屋 補給工場	第二海軍航空廠名古屋 支廠

ニ改メ第三

十一海軍航空廠美保補給工場ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

秘海軍公報 第四九七八號 昭和二十年四月七日

三五七



第三十一海軍航空廠
小松補給工場 石川縣江沼郡篠原村

(内令提要卷一、三〇ノ二四ノ一、二、四頁参照)

内令第二八三號

海軍衣糧廠ノ所屬及所在地並ニ同廠ニ置ク各部ノ件中左ノ通改正セラレ

昭和二十年四月一日

海軍大臣

表ノ末尾ニ左ノ如ク如ク

鎮海警備府 朝鮮京城府 總務部、被服部、糧食部
第三海軍衣糧廠 及會計部

(内令提要卷一、三〇ノ三四ノ四頁参照)

内令第二八四號

海軍技術廠及同支廠ニ置ク所要ノ部、課ノ件中左ノ通改正セラレ

昭和二十年四月一日

海軍大臣

第一海軍技術廠ニ置ク所要ノ部中「發動機部、」ノ下ニ「電氣部、」ヲ加フ

第一海軍技術廠支廠ニ置ク所要ノ部中「電氣部、」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ一六頁参照)

官房醫第三〇號

昭和二十年三月十日

海軍大臣

各鎮守府司令長官
各警備府司令長官
海軍軍醫學校長
海軍經理學校長 殿

保健實狀調査ノ件訓令

海軍軍醫學校長ハ首題ノ件左記ニ依リ之ヲ施行スベシ
各鎮守府司令長官ハ部下所要ノ各艦ヲシテ本調査ニ協力セシムベシ
海軍經理學校長ハ本調査ニ協力スベシ

記

一 目的

兵員ノ保健状態ヲ調査シ以テ健兵對策上ノ資料ヲ得ルニアリ

二 實施要領

委員長ハ委員及委員附ヲ以テ調査班ヲ編成シ必要ト認ムル所
轄ニ付委員長ノ定ムル所ニ依リ左ノ事項ニ關シ調査ヲ行フモ
ノトス

被服、寢具ノ實情

調理、供食ノ實情及之方榮養價

居住施設ノ實情

防寒對策實施ノ狀況
日課及課外作業實施ト休養ノ實情

兵員ノ體力及一般健康狀態
其ノ他必要ト認ムル事項

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)(ト)

<p>三 委員長、委員及委員附 委員長ヲ海軍軍醫學校長トシ委員及委員附ハ部下職員ヲ以テ之ニ充ツルノ外海軍省軍務局、教育局、軍需局、醫務局、經理局及海軍施設本部ノ職員ヲ加フルモノトス</p> <p>四 終了期 昭和二十年六月三十日</p> <p>五 報 告 實施セル所轄ニ付調査終了次第其ノ都度調査成績ニ所見ヲ附シ報告スルモノトス</p> <p>六 費 目 所要旅費ハ請求ヲ俟テ別途配付ス。</p>	<p>官房需第六六號 昭和十六年官房第六七三〇號ハ之ヲ廢止ス</p> <p>附 則 本號ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス 昭和二十年四月五日</p> <p>海 軍 大 臣</p> <p>(參照) 官房第六七三〇號ハ大阪海軍軍需部ニ於ケル經營需品及燃料ノ供給範圍ノ件ナリ(經營需品燃料取扱例規一八二ノ三頁)</p> <p>官房需機密第一〇二號 昭和十七年官房機密第一一三五號ハ之ヲ廢止ス</p> <p>附 則</p>	<p>本號ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス 昭和二十年四月五日</p> <p>海 軍 大 臣</p> <p>(參照) 官房機密第一一三五號ハ大阪海軍軍需部ニ於ケル所掌軍需品ノ件ナリ(經營需品燃料取扱例規一八二ノ三頁)</p>	<p>○ 通 牒</p> <p>軍務三機密第一九〇號 昭和二十年四月五日</p> <p>海軍省軍務局長</p> <p>各鎮守府參謀長 各警備府參謀長 殿</p> <p>菟麻子増産ニ關スル件申進</p> <p>航空潤滑油原料トシテ重要ナル菟麻子ノ増産ニ關シテハ從來大政翼賛會ノ主催ニ依ル國民運動トシテ實施セラレタル處戦局ノ現況ニ鑑ミ更ニ飛躍的増産ヲ圖ルベク本年度ハ政府ノ施策トシテ地方長官ノ責任ニ於テ實施セララルコトトナリタルヲ以テ海軍トシテモ部内空閑地其ノ他ヲ利用シ昨年度ニ數倍スル成果ヲ擧グル如ク積極的ニ措置相成度</p> <p>、追テ播種ニハ昨年度産保有ノモノヲ使用シ不足ノ場合ニハ海軍省經理局第五課宛要求シ採收セル種子ハ昨年通(昭和十九年九月八日海軍公報參照)處理相成度</p> <p>(註)</p>
--	--	---	---

秘海軍公報 第四九七八號 昭和二十年四月七日

三五九

昭和十九年度海軍部内菟麻子生産量(二月末調)
 横須賀鎮守府關係 五、九五〇疋
 吳鎮守府關係 四三〇疋
 佐世保鎮守府關係 一、〇一七疋
 舞鶴鎮守府關係 一、〇〇一疋
 大湊警備府關係 四四疋
 大阪警備府關係 七七〇疋
 合計 九、二一二疋
 内種子保有量 五四三疋

○雜款

○閉隊 閉隊

官衙、部隊名	所在地	閉隊、開隊月日	記	事
霧島海軍病院鹿屋分院	鹿兒島縣肝屬郡垂水町(舊垂水國民學校)	三月一日	旅行順路鹿兒島縣下車鹿兒島垂水開水路一七・六(六斤垂水馬橋分院間(バス便)車馬賃支給セズ)	
吳海軍工廠電氣實驗部	廣島市千田町三丁目廣島工業專門學校内	三月二七日	開隊轉市電電鐵前ニテ下車西へ約二百米	
同 造船實驗部	廣島市千田町三丁目廣島工業專門學校内	三月二七日	市内電話 中 五一九番 海軍電話 吳鎮交換	

○赴任轉勤旅費ノ件
 當司令部三月十一日指宿航空基地へ移轉ニ付當司令部へノ轉勤

者ハ指宿驛迄前金拂ノコトニ取計相成度
 尙家族移轉料支給上ノ勤務地ハ從前通佐世保事ヲ爲念
 (第四海上護衛隊司令部)

○轉勤者赴任先

自今當隊宛轉勤者ハ左ニ依リ赴任セシメラレ度
 鹿兒島縣給良郡國分町
 (攻撃第一〇五飛行隊)
 鹿兒島縣肝屬郡中良町
 中良航空基地(古江線中良驛下車)
 (攻撃第二五一飛行隊)
 (第七〇一海軍航空隊)

○正誤

四月一日附秘海軍公報第四九七三號令達欄官房經機密第一九五號中「三月三十一日」ハ「三月二十一日」ノ誤

秘

海軍公報 號外

昭和二十年四月八日(日)
海軍大臣官房

○訓示

官房軍第一七二號

訓示

内閣ノ更迭ニ際シ不肖海軍大臣ノ任ニ留マルニ當リ各所屬長官ニ訓示ス
今ヤ戦局危急ニシテ皇國ハ正ニ存亡ノ關頭ニ立ツニ至ル克ク戰勢ヲ轉換シテ勝機ヲ獲得スベキ帝國海軍ノ責務今日ヨリ重且大ナルハナシ

惟フニ今次戰爭ニ於テハ勝利カ然ラズンバ滅亡ノ外ナク戰勝ナクシテ生存ヲ望ム能ハズ上下均シク眞ニ背水ノ決意ト不拔ノ信念トヲ堅持シテ飽ク迄聖戰ノ完遂ニ邁進スルノ要今ノ時機ヲ措キテ他ニ無シ而シテ戰爭ノ勝利ハ物量兵衆ノ多寡ニ拘ラズ戰意旺盛ニシテ觀望果敢ニ闘フ者ノ手ニ歸スルコト戰更ノ實證スル所ニシテ上下相信シ各部相扶ケ海軍ノ總力ヲ結集シテ不屈不撓敢闘ニ徹スルニ於テハ戰勝ノ途自ラ通ズベキコトヲ信ジテ疑ハズ本大臣ハ天佑ヲ確信シ且必勝ノ決意ヲ以テ各員ト共ニ死力ヲ盡シテ皇國護持ノ任ヲ完フシ以テ 聖旨ニ應ヘ奉ランコトヲ期ス

秘海軍公報 號外

遺憾ナカラシメンコトヲ期スベシ

昭和二十年四月七日

海軍大臣 米内光政

1147

秘

海軍公報

第四九七九號

昭和二十年四月九日(月)
海軍大臣官房

命令

官房人機密第一九七號
本年三月二十五日現在左記上欄各隊ノ職員タル者ハ特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年三月二十五日

海軍大臣

記

偵察第三飛行隊	偵察第七〇七飛行隊
攻撃第七〇三飛行隊	偵察第七〇三飛行隊
攻撃第七〇九飛行隊	偵察第七〇九飛行隊

官房人機密第一九八號

昭和二十年三月三十一日附高等官六等ニ陞等セル海軍技師中副部員、副廠員又ハ副課員タリシ者ハ同日附ヲ以テ各其ノ廳ノ部員、廠員又ハ課員ニ補セラレタルモノトス

昭和二十年三月三十一日

海軍大臣

官房人機密第一九六號

昭和十九年勅令第九十九號ノ規定ニ依リ四月一日附任用セラレ

タル海軍技術科士官ノ海軍ノ席次ヲ左ノ通定ム
昭和二十年四月一日

海軍大臣

海軍技術大佐久山多美男	「一三五」ノ次ニ	海軍技術大佐、長野 萬	「一五」ノ次ニ
海軍技術中佐土屋五郎	「一九二」ノ次ニ	海軍技術中佐 日笠 育夫	「一九」ノ次ニ
海軍技術中佐江藤 禮	「二〇一」ノ次ニ	海軍技術中佐 大溝豊次郎	「一九」ノ次ニ
海軍技術中佐田中國隆	「二四四」ノ次ニ	海軍技術中佐 元良 勳	「二〇」ノ次ニ
海軍技術少佐山根 巖	「三四〇」ノ次ニ	海軍技術中佐 成田 利夫	「二〇」ノ次ニ
海軍技術少佐坂本 昇	「四六四」ノ次ニ	海軍技術中佐 小澤久太郎	「二四」ノ次ニ
海軍技術少佐 同	同	海軍技術中佐 澤 勝藏	「二四」ノ次ニ
海軍技術少佐 同	同	海軍技術少佐 武知 幸文	「三四」ノ次ニ
海軍技術少佐 同	同	海軍技術少佐 鷹田 正人	「三四」ノ次ニ
海軍技術少佐 同	同	海軍技術少佐 山内 誠二	「三四」ノ次ニ
海軍技術少佐 同	同	海軍技術少佐 尾形 迪吉	「三四」ノ次ニ

秘海軍公報 第四九七九號 昭和二十年四月九日

三六一

度

(別紙)

港頭倉庫建物疎開實施要綱(昭和二〇、三、一九)
第一方 針 (次官會議決定)

港頭倉庫密集地帯ニ於ケル脆弱倉庫ヲ強力ニ開引疎開セシメ
保管貨物ノ安全確保ヲ圖ルト共ニ港灣防空體制ノ確立ニ資セ
ムトス

第二 要 領

(一) 日本倉庫統制株式會社所管脆弱倉庫中差當リ八萬坪程度
ヲ除却セシムルヲ目標トス

(二) 疎開倉庫ノ支社別地帯別配分ハ倉庫ノ位置、強度及荷役
上ノ利便等ヲ勘案シ別途之ヲ定ムルモノトス

(三) 除却スベキ倉庫ハ日本倉庫統制株式會社ヲシテ所有者ヨ
リ買上ゲシメ除却セシムルモノトシ買上價格ハ政府之ヲ決
定スルモノトス

(四) 取毀資材ハ日本倉庫統制株式會社ヲシテ適當ナル箇所ニ
保有セシメ政府ノ指示ニ從ヒ防空又ハ災害復舊等適當ナル
方面ニ利用セシムルノ外輸送上ノ必要及貨物分散保管上ノ
必要ニ因リ日本倉庫統制株式會社ヲシテ倉庫建設ニ充テシ
ムルモノトス

(五) 本開引疎開ハ昭和二十年四月末日迄ニ完了セシムルヲ目
標トス

(六) 倉庫防空體制確立上附近民家疎開ヲ必要トスルトキハ逕
輸通信省ト緊密ナル連絡ノ下ニ主務官廳ニ於テ之ヲ行フモ

第三 措 置

(一) 倉庫買上價格ハ民家疎開ノ例及倉庫ノ營業施設タル點ヲ
勘案ノ上決定スルモノトス

(二) 倉庫ノ買上及除却ニ因リ日本倉庫統制株式會社ノ蒙ルコ
トアルベキ損失ニ付テハ政府ニ於テ之ヲ方補填ノ措置ヲ講ズ
ルモノトス

軍務一機密第二五四號

昭和二十年三月三十日

海軍省軍務局長

關係廳長殿

海軍練習航空隊ノ教育ニ關スル件申進

海軍練習聯合航空總隊ノ解散ニ伴ヒ當分ノ開海軍練習航空隊ノ
教育ニ關シテハ其ノ大綱ハ教育局、爾餘ノ教育一般ニ關シテハ
航空本部ニ於テ行フコトニ相成候條了知相成度

○ 雜 款

○昭和二十年四月中ニ於ケル海軍關係員ニ對スル訓令ニ依ル諸
講習實施一覽表

番號	種 別	場 所	期 日	員 數	記 事
一	船長等 (船團運動) (通信規定) (對潜警戒)	航空校	四月三	約三	第四回
二	航海士 (應急術)	航空校	四月三	約三	第四回

秘海軍公報 第四九七九號 昭和二十年四月九日

三六五

三	航海士(二航) (見張術)	航校	約三	第三回	九 乘船豫定 (同右)	同右	約二	第四回
四	甲板長操機長 (應急術)	航校	約四	第四回	一〇 給水員 (水管鑼船)	同右	約四	第三回
五	普通船員 (水測)	横防	約三	第三回	一一 船舶通信士 (電探)	同右	約三	後半 對潛校及 機通校
六	機關士 (淡煙焚火)	工機校	約四	第四回	(海軍省教育局)			
七	操機長 (同右)	同右	約三	第四回				
八	船舶機關員 (同右)	同右	約四	第四回				

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場所	記事
四月十一日 〇九〇〇	故海軍少將越野公成外諸勇士	吳海軍人事部長	海仁會吳集會所櫻松	佛式
同	故海軍大尉平木 茂外諸勇士	(岡山) 吳海軍人事部長	同	同
同	故海軍少佐繁田銀治外諸勇士	(大阪) 吳海軍人事部長	同	同
同	故海軍軍屬技師中西健一外諸勇士	(名古屋) 吳海軍人事部長	同	同
同	故海軍少將小豆澤 成外諸勇士	(松江) 吳海軍人事部長	同	同
同	故海軍中佐小梨三郎外諸勇士	(神戸) 吳海軍人事部長	同	同
同	故海軍大佐齊藤孝吉外諸勇士	(津) 吳海軍人事部長	同	同

○本日軍極秘海軍公報第一二二號(乙配付)發行セリ
配付先

各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、第十
一突擊隊、大楠海軍機關學校

秘

海軍公報號外(郵便)

昭和二十年四月九日(月)
海軍大臣官房

發送先

- 第一九六海防艦 艦裝員事務所
 - 第一九八海防艦 同
 - 第五十二驅逐隊 司令、軍醫長
 - 同 主計長
 - 第二輸送隊
 - 第六〇一航空隊
 - 第七六五航空隊
 - 攻撃 第一〇二飛行隊
 - 同 第二五二飛行隊
 - 同 第四〇二飛行隊
 - 同 第七〇二飛行隊
 - 岩國航空隊
 - 峯山航空隊
 - 北東航空隊松輪派遣隊
 - 沖繩方面根據地隊司令部
 - 第十特攻隊司令部
 - 第十一突擊隊
 - 第二特四襲擊隊
-
- 長崎市三菱重工業社内海軍監督官事務所氣付
 - 第一九六海防艦艦裝員事務所
 - 同 第一九八海防艦艦裝員事務所
 - 杉司令、軍醫長
 - 樫主計長
 - 横須賀局氣付 「ツ壹壹壹」
 - 茨城縣西茨城郡橋村、百里原航空基地氣付 「イ壹〇九」
 - 臺灣臺南市、臺南航空基地氣付 「イ貳貳四」
 - 同 「テ壹貳八」
 - 同 「テ壹貳九」
 - 同 「テ壹參五」
 - 同 「テ壹參九」
 - 山口縣岩國市 岩國航空隊
 - 京都府中郡口大野村 峯山航空隊
 - 大湊局氣付 「ツ壹〇八」 「ツ四九參」 「ツ貳貳貳」
 - 鹿屋市、鹿屋航空基地氣付 「セ壹七〇」 經山 「イ壹壹五」
 - 横須賀局氣付 「ツ參壹〇」
 - 同 「ツ五八壹」
 - 佐世保局氣付 「イ貳壹四」

秘海軍公報 號外(郵便)

三五

- 第三十六震洋隊
- 第四十六震洋隊
- 第一〇七震洋隊
- 第三百設營隊
- 第三百三十八設營隊
- 第一護衛艦隊軍法會議

同 第五軍用郵便所經山「イ貳貳參」
 同 第一軍用郵便所第一派出所經山「イ貳貳五」
 同 第五軍用郵便所經山「イ貳貳貳」
 同 神奈川縣、大船局氣付「ツ五九七」
 同 島根縣簸用郡、出西村國民學校氣付「ツ五九八」
 同 門司局氣付「イ參六」經山 軍法會議

○雜 款

○郵便物送付先

第十一聯合航空隊ハ三月一日以降第十航空艦隊直率トナリタルニ付第十一聯合航空隊司令部宛書類ハ總テ當司令部宛送付ヲ得度

(海軍稜部隊司令部)

○郵便物再送

本艦宛郵便物ニシテ三月十七日神戸地區被空襲迄ニ到着見込ナキモノハ再送付相成度

(伊號第十五潜水艦艦裝具事務所)

○郵便物宛先訂正

自今當隊宛ノ郵便物ハ左ニヨリ發送相成度
 宮城縣桃生郡矢本町松島航空基地氣付「ツ五八參」
 (舊木更津市、木更津航空基地氣付「ツ五八參」)

(第七〇六海軍航空隊)

(參照) 三月十六日海軍公報(號外) 郵便發送先ノ部二九頁

秘

海軍公報

第四九八〇號

司令

達

達第六四號

昭和十九年度ニ於テ建造ニ着手ノ潛水艦二隻、海防艦一隻、輸送艦三隻及敷設艇二隻ニ左ノ通命名ス

昭和二十年四月五日

海軍大臣

佐世保海軍工廠ニ於テ建造

波號第二百一潛水艦

波號第二百二潛水艦

敷設艇 神島 (カミシマ)

敷設艇 粟島 (アハシマ)

三菱重工業株式會社長崎造船所ニ於テ建造

第二百四號海防艦

吳海軍工廠ニ於テ建造

第二十一號輸送艦

第二十二號輸送艦

川崎工業株式會社浦崎造船所ニ於テ建造

第七十六號輸送艦

秘海軍公報 第四九八〇號 昭和二十年四月十日

昭和二十年四月十日(火)

海軍大臣

官房第一七一號

當分ノ間神奈川縣橫須賀市長井町ニ於ケル武山海兵團ノ施設ハ之ヲ部内限リ武山海兵團長井分團ト呼稱ス

武山海兵團長ハ分團ニ配セラレタル首席兵科將校ヲシテ團長監督ノ下ニ分團ニ於ケル教育ノ實施ヲ管理セシメ所轄長ニ準ジ分團ニ配セラレタル者及教育ヲ受クル者ノ身上ヲ取扱ハシムルコトヲ得

昭和二十年四月七日

海軍大臣

(昭和十九年官房第八七號武山海兵團分團ノ呼稱ニ關スル件ハ自然消滅)

官房第一七九號

當分ノ間海軍病院病舎ハ部内限リ左表ニ依リ當該海軍病院ノ分院ト呼稱スルコトヲ得

昭和二十年四月七日

海軍大臣

海軍病院病舎名	部内限リ分 院ノ呼稱	所在地
橫須賀海軍病院熱海病舎	熱海分院	靜岡縣熱海市
湯河原病舎	湯河原分院	神奈川縣足柄下郡湯河原町

三六七

1156

同	横濱病舎	横濱分院	神奈川県横濱市中国町
同	長濱病舎	長濱分院	神奈川県横濱市磯子區長濱
同	吳海軍病院道後病舎	道後分院	愛媛縣松山市湯町道後
同	別府海軍病院北濱病舎	北濱分院	大分縣別府市大字北町下
同	觀海寺病舎	觀海寺分院	大分縣別府市大字南立石
同	濱勝病舎	濱勝分院	大分縣別府市大字濱勝新町
同	佐世保海軍病院雲仙病舎	雲仙分院	長崎縣南高來郡雲仙町
同	小濱病舎	小濱分院	長崎縣南高來郡小濱町

官房人機密第三二〇號

昭和十九年官房人機密第一九八五號中左ノ通改ム

昭和二十年四月七日

海軍大臣

第一號表中入團(隊、校)期日ノ欄徴兵(現役兵)ノ部右以外ノ者ノ項「五月十五日」ノ下ニ「、九月二十五日」ヲ加ヘ同志願兵ノ部甲種飛行豫科練習生志願者ノ項「三月十五日、」ヲ削リ「八月十五日」ノ下ニ「、八月二十五日、九月二十五日、十月二十五日」ヲ加ヘ同乙種飛行豫科練習生志願者ノ項「六月一日、」ヲ削ル

第二號表中徴兵(現役兵)ノ部右以外ノ者ノ項中入團期日及修業豫定期日ノ欄ヲ左ノ如ク改メ志願兵ノ部右以外ノ者ノ項中終

業豫定期日ノ欄「五月十五日」ヲ「五月五日」ニ、同記事欄中「看護術」ヲ「衛生術」ニ改ム

五月十五日	八月三十一日
九月二十五日	昭和二十一年一月十日

(昭和十九年十一月三十日本欄参照)

官房第五六號

當分ノ開部隊、學校、病院等ニ於テ粗食生産ノ爲農藥、肥料、飼料、種子類ヲ要スル場合ハ海軍軍需部ヨリ供給ヲ受ケ又ハ之ヲ直接購買スルコトヲ得

前項ノ農藥、肥料、飼料、種子類ノ整理ニ關シテハ海軍省軍需局長及海軍省經理局長ヲシテ之ヲ通牒セシム

昭和二十年四月七日

海軍大臣

官房教機密第一九一號

昭和二十年海軍軍醫、藥劑、齒科醫見習尉官ノ見習尉官及同出身各科中少尉實務練習規則ニ依ル實務練習ハ左表ニ依リ之ヲ實施ス

昭和二十年四月九日

海軍大臣

實務見習尉官	實習期間	實習場所	實習要領	記	事
別科					

秘海軍公報 第四九八〇號 昭和二十年四月十日

第 二 期			第 一 期		
商科醫科	藥劑科	軍醫科	商科醫科	藥劑科	軍醫科
第一期 引續キ 一、業者既卒 二、約三月 三、約五月	第一期 引續キ 約三月	第一期 引續キ 約三月	四月中旬 ヨリ 約四月	四月中旬 ヨリ 約四月	四月中旬 ヨリ 約四月
戸塚海軍 衛生學校	各海軍病院 藥品廠	各海軍病院	戸塚海軍 衛生學校	戸塚海軍 衛生學校	戸塚海軍 衛生學校
術科實習 ノ外軍醫 補助官タ ルニ必要 ナル教育 ヲ實施ス	術科實習 ヲ主トス	術科實習 ヲ主トス	海軍衛生 學校補習 學生トシ テ又ハ補 習學生ニ 準ジ教育 ス	海軍衛生 學校補習 學生トシ テ又ハ補 習學生ニ 準ジ教育 ス	海軍衛生 學校補習 學生トシ テ又ハ補 習學生ニ 準ジ教育 ス
<p>一、本年九月末大學又ハ專門學校ヲ卒業スベキ者ノ身取扱ハ左ニ依ル</p> <p>(イ) 軍醫科 本年三月末假卒業ヲ以テ四月中旬見習尉官ニ採用ス</p> <p>(ロ) 藥劑科商科醫科 卒業時迄學徒勤勞勤員ニ依ル學徒勤勞隊員トシテ收容シ見習尉官候補者ト稱ス</p> <p>(二) 見習尉官候補者ハ上記實習場所ニ起臥セシメ基礎教育中ノ見習尉官ニ準ジ糧ヲ支給シ作業衣袴、略帽、脚絆、半靴等ハ貸與シ見習尉官採用時之ヲ購買セシム</p> <p>二、既卒業ノ者ハ見習尉官ニ採用シ前號ノ者ト同一教育ヲ實施ス</p>					
<p>軍需糧第二五號 昭和二十年四月九日</p> <p>關係各廳長殿</p> <p>糧食生産用農藥、肥料、飼料、種子類ノ整理 ニ關スル件通牒</p> <p>官房需第五六號ニ依ル首題ノ件ハ左記ニ依リ處理相成度</p> <p>記</p> <p>一、本品ハ糧食材料品(兵備品)トシ整理スルモノトス</p> <p>二、兵備品取扱主任前號材料品ノ種子類ヲ以テ生産シタル糧食品ハ納票ニ依リ受入ヲ爲スモノトス</p> <p>三、兵備品取扱主任直接購買ヲ要スルトキハ時價ヲ以テ購買シ</p>			<p>○ 通 牒</p> <p>教育機密第一五五號 昭和二十年四月六日</p> <p>海軍省教育局長</p> <p>各鎮守府參謀長 殿 各警備府參謀長 殿</p> <p>衛生術特技兵臨時講習教程標準ノ件通牒</p> <p>昭和十九年官房人機密第一七八八號ニ依ル首題ノ件別紙ノ通有之候</p> <p>(別紙添)</p>		

(教育機密第一五五號別紙)

(昭和二十年四月十日秘海軍公報)

備考	補科					本科							科目	項目	教授時數	
	體操、武技	信號術	砲術	軍事學	陪診用語	看護術實習	外科介補	傷者運搬法	消毒法	救急法	看護法	海軍衛生勤務法				藥物學及調劑術
解剖學及生理學ハ新兵基礎教育術科教程ニ於テ終了シ置クモノトス		手旗信號法	陸戰教練	軍事學一般		臨牀實習	手術準備、手術介補	徒手運搬法、用器運搬法	消毒法大要	救急法大要	看護法大要、簡易ナル臨牀検査法	醫療器具保存手入法、治療品ノ名稱及取扱法、身體検査法、其ノ他主ナル醫務、醫務隊勤務法	海軍規定ノ主要藥品一般及調劑術大要			
	計					八八	二八	一六	二二	四〇	四〇	四〇	二四			
		適宜														

衛生術特技兵臨時講習教程標準 (二月)

海軍公報 第四九八一號

昭和二十年四月十一日(水)

海軍大臣 齋藤 實

○令 達

内令第二八五號

昭和十八年内令第一一號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正

參謀長

昭和二十年四月一日

海軍大臣

美保航空基地ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第二高知航空基地 高知海軍航空隊

參謀副長

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

内令第二九〇號

右木籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル 第二百二十一號海防艦

佐世保鎮守府在籍

第二百二十一號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年四月二日

海軍大臣

内令第二九一號

潜水隊編制中左ノ通改定セララル

昭和二十年四月四日

海軍大臣

第十五潜水隊ノ項中「伊號第五十八、」ノ下ニ「伊號第三百五

十、」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第二九二號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年四月五日

海軍大臣

潜水艦、二等波百一型ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

波二百一型 波號第二百一、波號第二百二

海防艦、第二號型ノ項中「第二百二號」ノ下ニ「第二百四號」

ヲ加フ

輸送艦、一等第一號型ノ項中「第二十號」ノ下ニ「第二十一

號、第二十二號」ヲ、同二等第一號型ノ項中「第七十五號」

ノ下ニ「第七十六號」ヲ加フ

秘海軍公報 第四九八一號 昭和二十年四月十一日

三七一

1161

敷設艇、測天型ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

神 島 型 神島、粟島

(内令提要卷三、三三三頁参照)

内令第二九三號

水上艦艇水中測的教範別冊ノ通定ム

別冊ハ海軍文庫ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十三年内令第四七九號水中測的教範草案ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年四月五日

海 軍 大 臣

官房需第五七號

當分ノ間監視艇乗員ニ給與スル糧食ハ昭和十八年官房需第二〇

九號別表第二ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

昭和十九年官房需第二二三號ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年四月七日

海 軍 大 臣

(参照) 海軍會計法規類集三卷 (三三〇ノ一ノ二頁
三三〇ノ三八頁)

官房人機需第二二四號

昭和十九年官房人機需第一九八六號中左ノ通改ム

昭和二十年四月十日

海 軍 大 臣

本文中「看護術」ヲ「衛生術」ニ、「海軍病院練習部」ヲ「海軍衛生學校」ニ改ム

第二號中本文「看護術」ヲ「衛生術」ニ、(イ)第十項表

横須賀海軍通信學校	横須賀海軍通信學校
防府海軍通信學校	防府海軍通信學校
横須賀海軍通信學校	横須賀海軍通信學校

横須賀海軍通信學校	横須賀海軍通信學校
防府海軍通信學校	防府海軍通信學校
横須賀海軍通信學校	横須賀海軍通信學校

横須賀海軍通信學校	横須賀海軍通信學校
防府海軍通信學校	防府海軍通信學校
横須賀海軍通信學校	横須賀海軍通信學校

第二項中「前項」ヲ「前二項」ニ改メ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

昭和二十年三月二十五日海軍對潛學校ニ入校セシムベキ普通科水測術練習生候補者タルベキ志願兵中衛所班ヲ専修セシムベキ者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ入校後別ニ定ムル所ニ依リ速ニ各防備隊ニ入隊センメ海兵團ニ於テ實施スル規定ノ新兵教育ハ同隊ニ於テ之ヲ行フ

同號(ロ)中「當該術科學校ニ入校セシム」ヲ「當該術科學校又ハ海兵團若ハ防備隊ニ入校(團、隊)セシム但シ昭和二十年九月二十五日入團ノ徵兵ヨリ採用シ防府海軍通信學校ニ入校セシムベキ普通科電信術練習生候補者ハ各所屬ノ海兵團ニ於テ規定ノ新兵教育ヲ實施スルモノトシ之ガ新兵教程終業豫定期日ヲ昭和二十年十二月五日トス」ニ、同表中「入校セシムベキ術科學校」ヲ「入校(團、隊)セシムベキ術科學校、海兵團又ハ防備隊」ニ、「普通科練習生種別」ヲ「普通科練習生(專修班)別」ニ、「入團、入校」ヲ「入團、入校(團、隊)」ニ、「入校期日」ヲ「入校(團、隊)期日」ニ、

徵兵ノ部

海軍對潛學校	水測術
海軍航海學校	信號術
海軍航海學校分校	氣象術

橫須賀、大湊、佐伯、紀伊、佐世保、鎮海、舞鶴、各防備隊	水測術	衛所班
海軍航海學校及安浦、相浦、舞鶴各海兵團	信號術	
海軍氣象學校	氣象術	

海軍潛水學校	水雷
分枝	航術
海軍潛水學校	電機
	火機

ヲ

海軍潛水學校	潜航術
--------	-----

改メ末尾ニ左ノ如ク加フ

海軍對潛學校	水測術	艦艇班
橫須賀、大湊、佐伯、紀伊、佐世保、鎮海、舞鶴各防備隊	衛所班	
海軍航海學校及安浦、相浦、舞鶴各海兵團	信號術	
海軍氣象學校	氣象術	
橫須賀海軍通信學校	電信術	
豐川分枝	暗號術	
海軍電測學校	電測術	
海軍潛水學校	潜航術	

九月二十五日 自九月三十日 昭和二十年十月五日 十二月五日

同號(ロ)ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ規定ニ依リ水測術及信號術ノ普通科各練習生採用候補者ヲ入校又ハ入團若ハ入隊セシムベキ區分ハ左表ニ依ル但シ昭和二十年二月一日入團ノ志願兵ヨリ採用スベキ普通科信號術練習生採用候補者中橫須賀鎮守府在籍以外ノ者ハ右ニ準ジ前項ノ規定ニ依ル新兵教程終業後速ニ各所定ノ海兵團ニ入團セシムルモノトス

區分	在籍鎮守府別
普通科水測術(衛所班)練習生採用候補者	橫須賀、大湊、佐伯、紀伊、佐世保、鎮海、舞鶴各防備隊
普通科信號術練習生採用候補者	海軍航海學校、安浦海兵團、相浦海兵團、舞鶴海兵團

同號(ハ)及(ニ)中「各術科學校」ノ下ニ「又ハ海兵團若ハ防備隊」ヲ加ヘ同號(ホ)中「看護術」ヲ「衛生術」ニ改メ表末尾ニ左ノ如ク加フ

昭和二十年九月二十五日入團ノ徵兵 昭和二十年十二月五日

同號(第一)項中「衛生兵ニ在リテハ海軍病院ニ入應シタルトキ」ヲ削リ「各學校(病院)長」ヲ「各學校長(練習生教育ヲ實施スベキ海兵團長、防備隊司令以下同ジ)」ニ改メ第三項中「(病院)」ヲ削ル

(昭和十九年十一月三十日本欄参照)

○ 通 牒

海人三機密第二號ノ四四

昭和二十年四月九日

海軍省人事局長
海軍省醫務局長

各鎮守府參謀長
關係各廳長 殿

傷病者ニ對スル轉免役等ノ處分促進ニ關スル
件申進

海軍病院又ハ内地海軍各部ニ於ケル患者收容施設ノ現狀ニ鑑ミ入院(入室ヲ含ム)中ノ患者ハ昭和十九年官房人機密第七三四號ニ依リ限定ノ勤務ニ堪ヘ得ル見込アルモノ、家庭其ノ他ノ事情ニ依リ當分海軍ニ於テ治療セシムルヲ適當ト認ムルモノ又ハ

恩給關係公務ノモノ等ヲ除クノ外兵役法第二十一條ノ規定ニ依ル轉免役等ノ處分ヲ速ニ確定シ退院歸郷セシムルノ要アルニ付テハ首題ノ件左記要領ニ依リ處理スル如ク取計相成度

記

一 海軍病院長ハ毎旬初頭入院中ノ患者ニシテ轉免役又ハ召集解除至當ト認ムルモノヲ調査シ別紙様式ニ依リ在籍ノ鎮守府又ハ警備府司令長官ニ之ヲ具申ス
送院困難等ノ爲海軍病院以外ノ海軍各部ニ於テ療養中ノ者ニ對シテハ當該所轄長ニ於テ前項ノ規定ニ準ジ手續ヲ爲スモノトス

二 司令長官前號ノ其中アリタルトキハ海軍人事部長及鎮守府軍醫長ヲシテ速ニ之ヲ審査セシメ轉免役、召集解除等ノ處分ヲ決裁ス

海軍人事部長ハ右決裁ニ基キ履歷記入事項其ノ他所要事項ヲ調査シ當該病院長又ハ所轄長ニ通知シ速ニ退院歸郷ノ手續ヲ了スルモノトス

三 海軍病院長又ハ關係所轄長第一號ノ其中ヲ爲シタルトキハ事後速ニ規定ノ診斷書ヲ調製シ進達スルモノトス
(別紙添)

水機密第三五六號ノ一

昭和二十年四月二日

水路部長

關係各廳長殿

内邦地圖取扱區分變更ノ件通牒

首題ノ件ニ關シ大本營陸軍參謀部ヨリ別紙ノ通牒有之候條了知相成度

(別紙)

大本營參謀第九號第參八
陸軍部

内邦地圖取扱區分變更ノ件通牒

昭和二十年三月九日

大本營陸軍參謀部總務課長

水路部長殿

左記地域ノ「軍事極秘」並ニ「軍事秘密」タル梯尺五萬分一以上二萬五千分一以下ノ地形圖ハ日本内地(朝鮮臺灣ヲ含ム)ヲ戰地ニ準シ「戰地ニ限リ極秘」ノ取扱ニ變更セラレタルニ付依命通牒ス

追テ各部隊ニ於テ保管シアル右地圖ハ秘區分標記ノ下ニ(戰地ニ限リ極秘)ヲ附記スルト共ニ地圖用紙上縁ニ一般「秘」圖ト區別スル爲メ朱線(幅二種内外)ヲ引キ一連番號アルモノハ之ヲ削除シ本通牒ノ日附ヲ以テ保管原簿ヲ整理相成度尙接續貼付等ノ場合ニ於テハ一般「秘」圖ト混淆防止ノ爲メ圖廓外ヲ切り離ササル様一般ニ徹底セシメラレ度爲念

左記

- 一 北緯四十八度以南ノ樺太
- 二 北海道、本州、四國、九州

秘海軍公報 第四九八一號 昭和二十年四月十一日

三 北緯三十七度以南ノ朝鮮
以上各屬島ヲ含ム

○雜 款

○參考圖書類配布ノ件依頼
今般當部創設セラレ候ニ就テハ執務上必要ニ付化兵戰(瓦斯、防毒、燃夷、火焰、發煙、細菌戰等)並ニ此ニ關聯アル事項ニシテ參考トナルベキ左記圖書類配布方取計ヲ得度

記

- 一 兵器施設關係
- 二 實驗研究關係報告及摘錄
- 三 化兵戰ニ關スル諸規程
- 四 用兵作戰等ニ關スル情報、戰訓
- 五 編制要員關係
- 六 教育關係
- 七 醫務衛生關係

(海軍化兵戰部)

○開闢 開隊

官衙、部隊名	所在地	開闢、開隊月日	記 事
臺灣海軍航空隊	臺灣新竹航空基地	二月三日	一 二月二日上記ノ場所ニ移轉 二 旅行順路 從貫新竹驛下車(徒歩約二十分)
本部	新竹航空基地		

三七五

事務所撤去	事務所名	撤去月日	記	事
第三十七設營	千葉縣木更津航空基地	三月二〇日	一 三月一〇日上記ノ場所ニ移轉 二 房總四線木更津驛下車(陸路三軒徒歩約三十分)	
大阪海軍經理部	豊中市北力根山三八二大阪藥學專門學校々内	三月二八日	一 三月一八日上記ノ場所ニ移轉 二 旅順路 三 電話 豊中 五四四番	
佐世保海軍軍需部第一課(兵務)	軍港内前畑地區	四月一日	四月一日上記ノ場所ニ事務室ヲ移轉	
同 (燃料)	同 赤崎地區	同	同	
○事務所撤去				
第百九十四號海防艦裝員事務所		三月一五日		
縣送艦裝員事務所		三月二六日		
第百九十六號海防艦裝員事務所		三月三一日		
驅逐艦裝員事務所		三月三一日		
軍艦伊吹裝員事務所		四月二日		
○正誤				
四月五日附秘海軍公報第四九七六號令達欄官房經機密第二一四號附則第五項中「該當スル地域」ハ「該當スル地域(以下戦地ト稱ス)」ノ、「規定スル地域」ハ「規定スル戦地(以下單ニ戦地ト稱ス)」ノ孰モ誤				

○本日海軍公報發行セズ

